

近年、角田市の阿武隈川上空がにぎやかだ。川面を駆け抜ける突風、奔流に洗われた河川敷。そんな生活上の「悪条件」がグライダーの滑空、離着陸にもつてこいと、市内の河川敷に整備された角田滑空場がスカイスポーツの拠点として定着しつつある。

宮城

研究機関があることから「明日の宇宙を拓(ひら)くまち」というフレーズで知られた角田市。近年は「あぶくまの風かおる健康都市」へと装いを変えたが、川風を受けて上空を旋回するグライダーの機体は、二つのキャッチコピーを見事に体現しているようだ。

風に吹かれて活性化

グライダーを地域活性化につなげようと、五月には地元商工会青年部が宮城県航空協会などと一緒に角田スカイスポーツフェスティバルを開催。宮城県防炎ヘリ、ジヤイロコプター、果てはラジコン飛行機までが集結し、観客の前で見事なデモンストレーション飛行を披露した。

白い機体が風を切る音に誘われて、思わず上空を仰ぎ見る。目に入るのは透き通った青空と、それを縁取る新緑の山々。近代的な空からの珍客は、角田市が保ち続ける自然の魅力をも教えてくれる。

(角田支局・斎藤秀之)